



とつげき☆レポート

あんな話・こんな話・しごとの話

新年、明けましておめでとうございます。

2012年、マヤ文明では人類滅亡説が囁かれています
が人類の安心・安全な生活を脅かす、様々な脅威が少し
でも減るような一年になってほしいものです。

お正月のとつげき☆レポは、ファミリーケア北千住の
男性ヘルパーで、新任所長でもある相木所長に決定！！

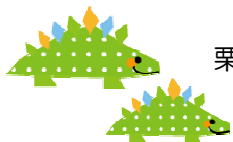
栗原 ファミリーケア入職当時のお話を聞かせて下さい。

相木 介護職に就いて8年目を迎えます。異業種からの転職
でしたが、当時は男性ヘルパーの面接自体が少ない
状況でした。訪問で登録型ではない事業所を希望
していたのと、医療との連携が重要と考えていた
ことが、ファミリーケアへの就職の決め手でした。

入職時は1日10件以上のオムツ交換をしていますが、
介護技術だけではヘルパーとして一人前にな
れない思いから、生活援助のケアも希望しました。
生活援助はコミュニケーションが不可欠で奥が深い
分、やり応えもありますね。

栗原 ファミリーケア柳原入職後、花千寿（現在は閉鎖）・
北千住へ異動とずっと千住地域ですが、地域性を感
じることはありますか？

相木 ありますね！4号を越えると全然違います（笑）
北千住は手ごわい利用者さんが多い（笑）意思や要
望が強い。でも“その人らしく”生きている方が多
いってことですね。こちら（利用者）が言いたい
ことを言える雰囲気・関係づくりは意識しています。



栗原 ファミリーケア北千住の特徴である
夜間ケアについて教えてください。

相木 ナースと組んで訪問しますが、入職当時の8年前と
はだいぶ状況が変わりました。全体的な訪問回数は
減りましたね。法改正の改悪で利用を制限せざるを
得ない方が出てしまったり、逆にオムツやマットの
性能が上がって、オムツ交換や体位交換の必要がな
くなったり減ったケースもありますね。

栗原 なるほど。色々な側面で変化しているんですね。
課題や問題点はどのようなことがありますか？



相木 ケア中の駐車です。
道幅等の条件が合わず
駐車許可が下りない
場合も多く、コイン
パーキングの利用で
経費がかさみます。
行政にはそういった
訪問実態に対する理解
（駐車許可）がほしい
ですね。



相木所長

栗原 介護職だからこそ、意識していることはありますか。
また“やっぱり訪問はおもしろい”と感じることは？

相木 毎日笑顔でいることが理想だけど、笑顔が出来ない
日には真顔でもいいから、同じ状態であることは心
がけていますね。あとは利用者の声を聞くことです。
（利用者の）声の代わりになるときもあります。
その際は情報の取り扱いがすごく大事ですね。
訪問は利用者が変わると環境ごと変わるのが飽き
ないコツですね。新規の利用者さんか来ると、また
1からのスタートです。



栗原 ではでは息抜きや楽しみを教えてください！

相木 温泉が大好きです。（お酒も）オススメは箱根の奥地
にある泥風呂ですね。今冬に行きたいのは、新潟の
瀬波温泉です。波飛沫がテトラポッドに当たって凍
る、“雪花”が見たいんです。



栗原 泥風呂で熱燗・・・うっとりしちゃいますね～
最後にガツンと“ヘルパーの主張”をお願いします！！

相木 男性ヘルパーにもっと来てほしいですね。学生が就
職を考えるときに選択肢の一つに入るように、また
介護職に就いていることを「えらいね」と言われな
い様にしていきたいです。その為には、（介護職でも）
男性がいっぱしに食べていけるように、賃金を上げ
ることが大切です。国へも訴えて制度も変えてい
かなければなりません。男性が（介護職を）辞めて
いく理由は給与が一番多いんです。きちんと仕事と
して確立していく必要があります。



インタビューを終えて

男性ヘルパーとして様々な面での先駆者的な存在である
相木所長。“同じ状態を心がける”プロ意識は今年の
私の目標にしたいです・・・。今年は介護保険の改定が
控えています。利用者様のことはもちろん、介護職の
待遇の向上についても一緒に声を上げていきます!!

インタビューア：事務局 栗原つむぎ

震災から学んだことは・・・ 介護活動交流集会開かれる

今年の介護活動交流集会はスローガンを「つなげていこう 介護の底力 ～震災から学ぶ生活の原点～」として11月20日(日曜日)に開かれました。



記念講演は、NPO法人コミュニティライフサポートセンター理事長であり、東北関東大震災・共同支援ネットワークの池田昌弘氏から「震災の中で実感した高齢者の生活と支援のあり方」と題して行われました。

印象的だったのは、『支援を通して感じた事として、《支援に全面的に依存してくる地域》と《地域や集団として復興の中心として活動しながら、ボランティアに支援と協力を求めて来る地域》とに別れている。その違いは、平時（普段）から、人と人とのつながりや地域連携がつくられているか否かだ』というお話です。平時こそが大事だと学びました。また、制度の枠にとらわれない発想の転換と実践こそが、実のある支援になるといいます。

一人一人の生活の中で、「ふつうに くらせる しあわせ」(福祉・介護)を、行政や地域と一緒にどうやってつくり上げていくのかを学びました。

演題発表は、各分野に加えて震災支援に参加した職員からアンケートという方法で情報を収集し、支援者の想いも発表してもらいました。

「良かったと思われる演題は？」という設問に対して最も多かったのが、葛飾やすらぎの郷の「プロセッサー食への取り組み ～ワンスプーンに想いをのせて～」でした。人にとって食べる事は日常ですが、それが出来なくなったときの入居者さんの想いに寄り添って支援する取り組みは、スライドに映し出された入居者さんの表情が全てを物語っていました。

《ワンスプーン★メニュー》



ウニ乗せご飯

高野豆腐

鯖(さわら)の照焼き



質問する参加者

参加者は 89 名で昨年より少なく、参加がゼロだった介護系の事業所が全事業所の半数近くあり今後の

介護活動交流集のあり方や位置づけを検討する必要があります。協議会外の介護福祉専門学校からの参加があったのは嬉しかったことの一つです。

実行委員一同

ふれあい日記 ～ファミリーケア新小岩～



山本 稔さん

『いつも元気をありがとうございます!』



私達の事業所は江戸川区の松島というところにあります。今回は私たちが訪問している中で、一番の最高齢である山本稔さんを紹介させていただきます。

明治40年生まれ、現在104歳の山本さんです。お写真もお若いですが、実物はもっとお若いです。高知県に生まれ、大阪に修行に行って縫製の技を身につけて舞鶴、東京へと進出。東京にてご結婚され、5人のお子さんに恵まれたそうです。その後戦争中は高知への疎開を経て新小岩の地に家をかまえ、縫製業を営んでいらっしゃいました。いつも笑顔で「ありがとう!ありがとう!」と言って下さる山本さん。いつも私たちに色々な話を聞かせて下さいます。もっともっと聞きたいと思い、いつも後ろ髪をひかれながら帰っています。山本さんに頂いた言葉、「皆さんに支えられて長生きしている自分を誇りに思う。」「ヘルパーさんが来てくれて家がにぎやかになった。」「痛いところもないし、今が一番幸せじゃ。」嬉しくて涙が出そうです。いつもひとつひとつの言葉に元気を頂いています。

最近驚いたことはテレビのマツコデラックスをみて男だと知ったときだそうです。「ほお〜!」とずっと見てらっしゃいました。

これからももっともっと長生きして色々な話を聞かせて下さい。 ファミリーケア新小岩 中村 道子

